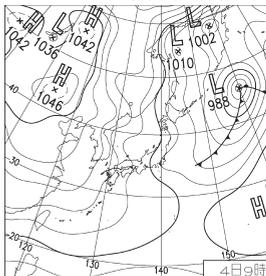


日々の天気図

— No. 71

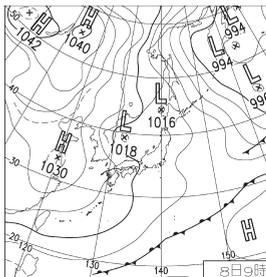
2007年12月

・21日、前線の影響で南西諸島大雨、沖縄県南城市110 mm/1h は月の極値。
 ・30日～31日、冬型の気圧配置が強まり日本海側各地で大雪。24時間間の降雪量は岐阜県上市市長滝98 cm、福島県金山町76 cm、長野県白馬村72 cm、福井県大野市九頭竜72 cm、広島県庄原市高野59 cm など。
 (気象庁予報部予報課)



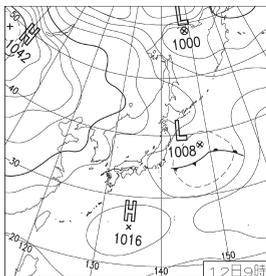
4日(火) 冬型の気圧配置

北海道から東北にかけての日本海側、北陸、山陰は雨や雪、太平洋側は晴れ。稚内では24時までの日降雪量38 cm、金沢の最大瞬間風速は西の風26.3 m/s、東京のイチヨウ落葉。



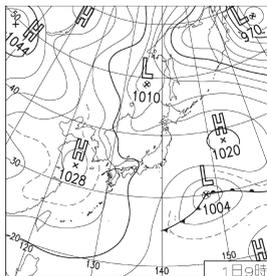
8日(土) 日本海に帯状対流雲

上空に寒気を持った気圧の谷が日本海を東進。北海道日本海側～山陰は雪や雨。朝鮮半島北東部の長白山脈の風下にあたる日本海西部から能登半島沖にかけて帯状対流雲が明瞭。



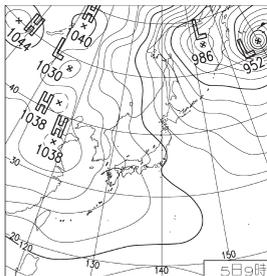
12日(水) 西から雨

本州は気圧の谷。気圧の谷の影響で九州北部や中国で降り出した雨は西日本に広がる。東日本は太平洋側を中心に日中晴れ。東海では最高気温が平年より4～5℃高め。



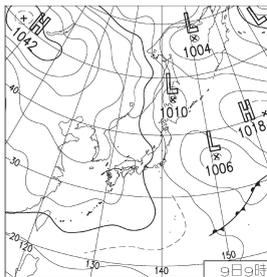
1日(土) 改正気象業務法施行

火山の噴火予報・警報等の発表開始。気圧の谷や寒気に伴う雲域が日本海を南下。北～西日本の日本海側は曇りや雨で山陰～北陸は所々雷。他は高気圧に緩やかに覆われ概ね晴れ。



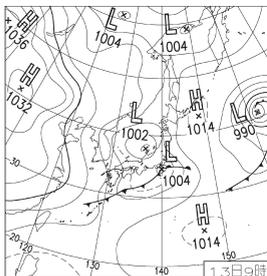
5日(水) 冬型の気圧配置続く

日本海は寒気に伴う対流雲で覆われる。日中の最高気温は概ね平年より低く、12月中旬から1月下旬並みで、北海道は真冬日の所多し。静岡市、高知市で初氷。



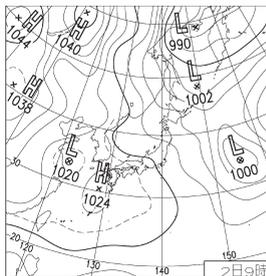
9日(日) 冬型の気圧配置

山陰・北陸から北日本の日本海側は曇りや雨や雪。関東から西の太平洋側は概ね晴れ。フィジー諸島南方でMw7.8の地震発生 (USGS: 米国地質調査所)。



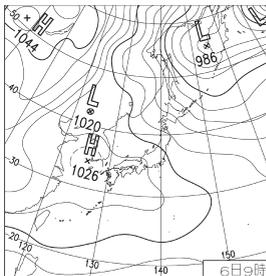
13日(木) 二つ玉低気圧

前線を伴った低気圧が本州太平洋沿岸を、別の低気圧が日本海を北東進。各地雨で、東北地方や北海道は雪。紀伊半島沖から伊豆諸島では雷。夜になって低気圧発達、北日本大荒れ。



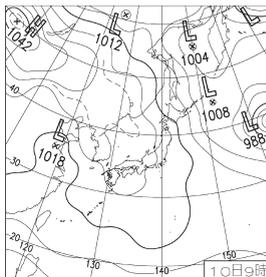
2日(日) 酒田市でひょう

北日本は弱い冬型。北日本や北陸、山陰では雨や雪。関東以西や北海道東部は日中晴れるが、西日本は、低気圧や前線が接近し、夜には雨。山形県酒田市でひょうや突風被害。



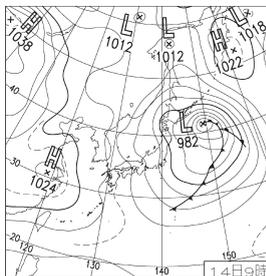
6日(木) 西日本からも冬の便り

冬型の気圧配置は次第に緩み、北日本中心に。西日本は高気圧に覆われるが、朝の最低気温は軒並みこの冬最低を記録。九州・四国を中心に初霜や初氷の便り。



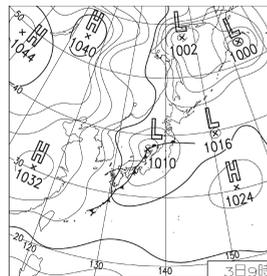
10日(月) 北日本は冬型

北日本の日本海側と北陸は雪か雨、太平洋側は晴れや曇り。その他は移動性の高気圧に覆われ概ね晴れ。最高気温は山陰と南西諸島で平年より高めの他は、ほぼ平年並。



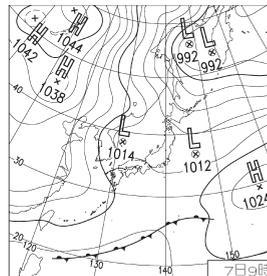
14日(金) 冬型一時的に強まる

低気圧が北海道の南東海上へ進み、冬型の気圧配置強まる。関東地方は晴れたが、その他は曇りが多く、北海道と東北から近畿地方にかけての日本海側は、終日雪や雨。



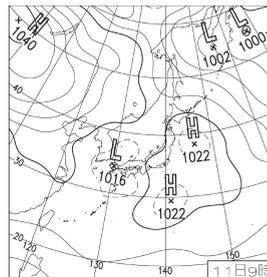
3日(月) 天気ぐずつく

前線を伴った低気圧が日本海から三陸沖へ東北東進し、全国的に曇りや雨。関東地方は、はじめ南西の山越えの気流で晴れたが、寒冷前線の通過とともに風向と気温が急変。



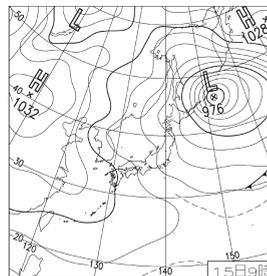
7日(金) 雪は少なめの「大雪」

二十四節気の「大雪」。日本付近は気圧の谷。関東や東海の南岸は晴れるが、その他は曇りや雨。新潟県三条市の65 mm/日は12月の極値更新。札幌市は5日ぶりに真冬日から解放。



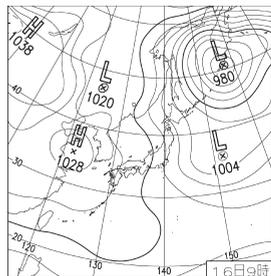
11日(火) 占冠村 -20.7℃

対馬海峡の低気圧を含む気圧の谷が東進。西から次第に弱い雨。北海道は所々雪となり、占冠村では全国でこの冬初めて-20℃を下回った(富士山を除く)。

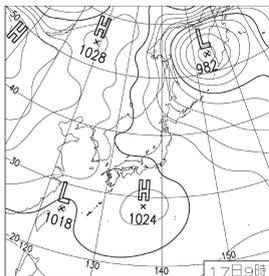


15日(土) 島根県隠岐でひょう

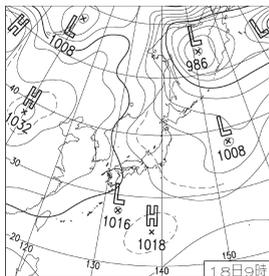
引き続き冬型。北日本の日本海側で雪、その他の日本海側は雨、太平洋側は晴れや曇り。最高気温は北海道の一部で平年より高め、北陸で低めの他は概ね平年並。



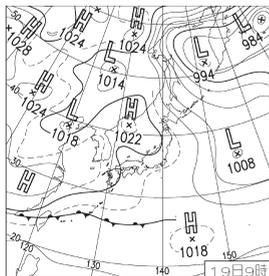
16日(日)前橋市 平日に初雪
上空の気圧の谷が東海上に抜け、次第に山雪型に移行。北～西日本の日本海側は山沿いを中心に雪や雨、太平洋側は概ね乾燥した晴天。前橋市で初雪と榛名山の初冠雪を観測。



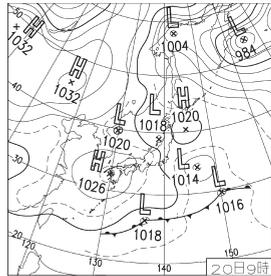
17日(月)東日本厳しい冷え込み
冬型の気圧配置は緩み、北日本の強風はおさまる。太平洋側や九州の一部で日中晴れた他は概ね曇りや雪。南西諸島は夜に雨。長野県上田市菅平で-16.3℃と真冬並の冷え込み。



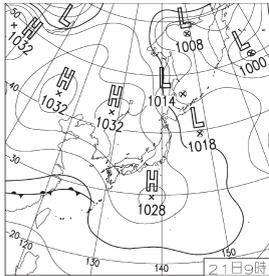
18日(火)気圧の谷通過
中国大陸の高気圧が西日本に張り出し、上空の気圧の谷が東日本以北を通過。帯状対流雲により、福井県、新潟県では所々で50mm/日を超える雨。雨雲の一部は関東平野部にも。



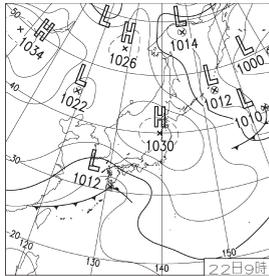
19日(水)北海道東部 冷え込む
北日本の日本海側は曇りで所々弱い雪。北日本から近畿の太平洋側は晴れ、関東は北東風の影響で曇り。北海道東部の最低気温は平年より3℃程度低い1月中旬並み。



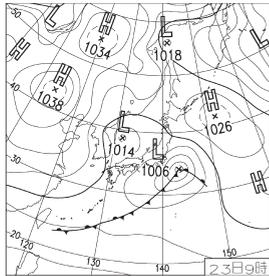
20日(木)静岡県等で初氷
北海道日本海側は曇りや雪、太平洋側は晴れ。東北北部は雪、南部は雪や雨。北陸は平野部で雨、山では雪。関東以西は概ね晴れ。静岡県御殿場市、鳥根県隠岐の島町で初氷。



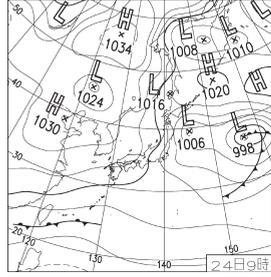
21日(金)沖縄で豪雨
先島諸島付近で発生した発達した積乱雲が東進し、沖縄本島地方の各地で激しい雨。中でも沖縄県南城市糸数では、観測史上1位となる110.0mm/1hの猛烈な雨を記録。



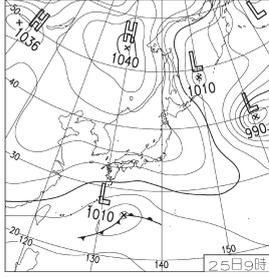
22日(土)屋久島季節外れの大雨
低気圧が日本の南岸を東進。西～東日本で雨や雪。鹿児島県屋久島町小瀬田で92.5mm/1hの猛烈な雨。北日本は晴れや曇り。東日本は日中気温が上がらず最高気温は真冬並の所も。



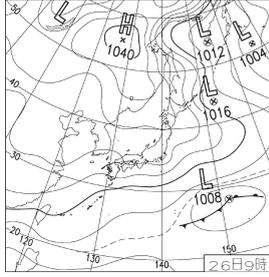
23日(日)関東甲信地方で雪
関東の東海上を低気圧が東進。甲信地方や関東地方北部の標高の高い所は朝方まで雪となり、河口湖で24cmの積雪。平地は雨となったが、東京の奥多摩町小河内では積雪の所も。



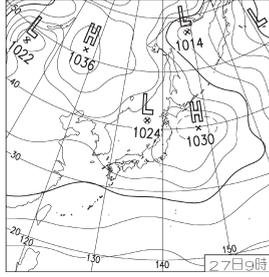
24日(月)冬型の気圧配置
低気圧が東北北部を通過後、冬型の気圧配置が一時強まる。北日本から北陸にかけやや強い北西風が吹き、日本海側の山沿いを中心に雨や雪、太平洋側は北日本を除き晴れ。



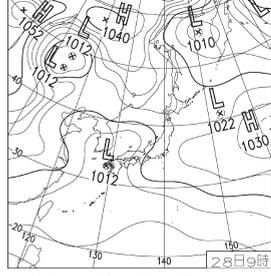
25日(火)沖縄県未明に激しい雨
北海道南部と東北、西日本日本海側は晴れ。午後、四国太平洋側で雨。その他は概ね曇り。沖縄県南大東島で50mm/1h。九州では、最低気温が4～7℃高い11月中旬並み。



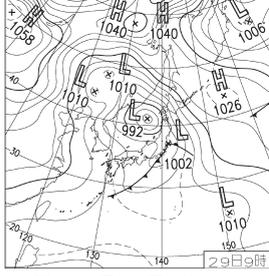
26日(水)北海道 軒並み真冬日
大陸の高気圧に覆われて穏やかに晴れた北海道空知・上川支庁など内陸部は、最低気温が幌加内町幌加内でも-27.1℃など多くの地点で-20℃を下回る。09時、旭川市で細氷を観測。



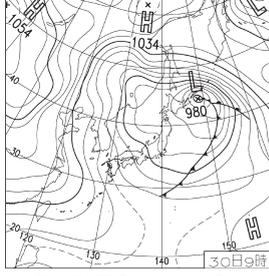
27日(木)金沢市、鳥取市で初氷
西～東日本は高気圧に緩やかに覆われ、晴れの所が多いが、北日本は低気圧の影響で雪や雨。南西諸島や九州も夜には雨。東～北日本は冷え込み、北海道富良野市東町で-24.9℃。



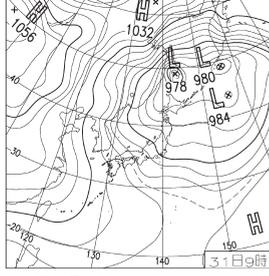
28日(金)沿岸部で大雨
九州西の低気圧が発達しながら東北東進。高知県や三重県で3時間に60mmを超える短時間の激しい雨。活発な積乱雲が通過した伊豆諸島では雷雨。



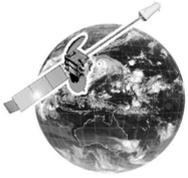
29日(土)深い気圧の谷
日本海北部と三陸沖の低気圧が発達しながら北東進。北海道では低気圧の影響で東部を中心に風雪強し。最大瞬間風速は北海道胆振支庁室蘭市で29.3m/s。



30日(日)西日本に寒気流入
鳥取県米子市上空約5,000mで-35.9℃の寒気。西日本各地で平年より遅い遅い初雪、初冠雪。四国～南西諸島の最高気温は真冬並み。午後、関東で不安定による雷雨。

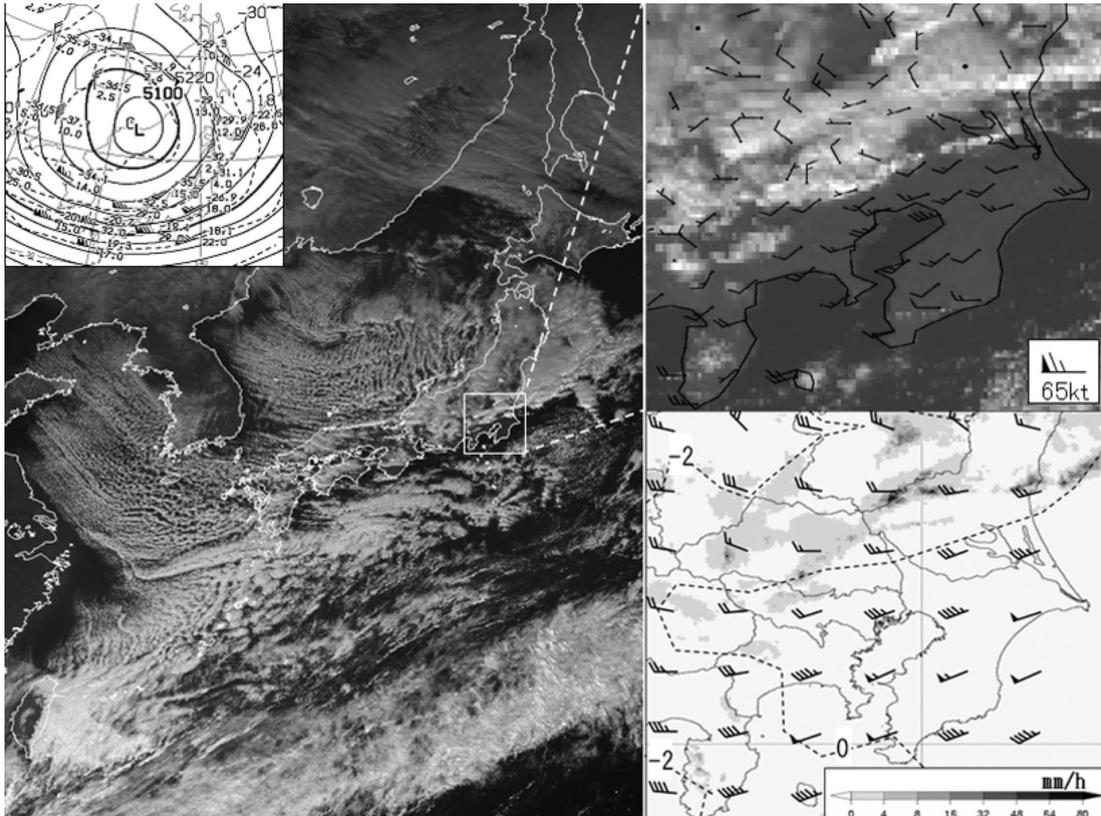


31日(月)ほぼ全国的に真冬並み
日本付近には札幌市上空約5,000mで-41.7℃の強い寒気流入し、本州の南海上にも広く筋状の雲。最高気温は全国的に真冬並みで、西日本から次々に初雪や初冠雪の便り。



今月のひまわり画像—2007年12月

寒波の襲来と関東地方の南西強風



左図は30日9時の500 hPa 高層天気図と30日12時の可視画像，右図の上段は30日12時の可視画像とアメダスの風，下段は30日12時のレーダーエコー強度と毎時大気解析による850 hPaの風・等温線（破線）。

年末から年始にかけて、日本付近はこの冬一番の寒波に見舞われた。30日9時の500 hPa 天気図では、中心が -40°C 近い寒気が沿海州付近にあり、31日にかけて北日本を通過した。同日12時の可視画像では、黄海・東シナ海～九州・四国付近と日本海中・西部～本州付近にかけて筋状雲がびっしりと発生している。

冬の気圧配置時の関東地方といえば、北西の強い季節風が吹いて晴れているのが典型的だが、この日は違っていた。関東地方には線状の対流雲域が見られ、12時のアメダスでは、関東山地の南側を吹いてきた南西風と関東北部からの北西風により形成されたシアーラインが東京都の多摩西部から茨城県の霞ヶ浦にかけ

て解析できる。このシアーラインの北側とそのライン上で対流雲が発達し、所々で雷雨となった。

シアーラインの南側にあたる関東南部では、よく晴れており 13°C 前後まで昇温した。850 hPaの風及び気温分布から、関東山地を越える西寄りの気流によってフェーンが発生していた可能性がある。昼頃を中心に南西風が強くなり、11時57分には千葉市で西南西の風、最大瞬間風速 25.9 m/s を観測した。この強い横風で東京国際空港では、出発機が一時離陸を見合わせる状況になった他、成田国際空港では別空港へ代替着陸した航空機があった。

(気象庁予報部予報課 原 基)